

コミュニティ・スクールの発展を通じた 地域コミュニティプラットフォームの創出

長谷部葉子研究会 Local Active-Learning Project

プロジェクト概要

Local Active-Learning Project は、地方（長野県木曾郡木曾町開田高原）の中学生と共に地元の魅力を再発見し外に向けて発信する活動や、留学生や海外の同世代との国際交流活動を行う中で、学校や地方行政との協力体制を作り、「コミュニティ・スクール」の取り組みを発展させ、普及させることを目標に活動しています。

その根本には、「地方と都市の教育機会の差」に対する問題意識があり、私たちは、コミュニティ・スクールを発展させ、地方の子ども達がより多様な学びを得られる機会を作るという方法でそこにアプローチしたいと考えています。

また、そのアプローチを進める中で、コミュニティ・スクールが、行政・学校・地域の人・地域外の人を含めた様々な人が集う場所、「地域コミュニティのプラットフォーム」としての役割を担うようになるのではないかと考え、その効果について研究を進めています。

背景

本プロジェクトは、プロジェクトメンバーの1人が、都内の公立中学校に通い、英語を楽しく使う経験をするワークショップを行う中で、自身の出身地である地方には、都市部にある学校外の教育的コミュニティが少ないことに気づき、2016年度、幼少期を過ごした長野県で行った個人活動から始まりました。長野県木曾郡木曾町立開田中学校の有志生徒を対象に、2016年度の夏期活動として「英語で開田高原のパンフレットを作ろう」、冬期活動として「タンザニアの中学生とオンラインで交流しよう」というワークショップを行いました。

1年間個人で活動しましたが、1人でやれることの限界を感じ、プロジェクトメンバーを募集。2017年度から、「大学生・中学生・学校の先生・地域の大人が、地域を題材に、お互いに働きかけ合いながら能動的に学んでいくプロジェクト」、Local Active-Learning Project として活動を開始しました。



活動報告

2017年度夏期活動：International Summer Camp

慶應義塾大学の日本人学生6名と留学生4名が長野県木曾郡木曾町開田高原を訪問し、2017年8月7日から11日の4日間に渡ってワークショップを実施しました。参加者は、長野県木曾郡木曾町立開田中学校の全校生徒36名のうち、中学3年生16人と中学1・2年生の有志5名の、計21名でした。

中学生は、日本人大学生や留学生と共に開田高原を巡る中で、開田高原の魅力を再発見し、成果物として開田高原のPR動画を作成しました。

ワークショップの目的は、

1. 自分のふるさとの魅力を再発見する
2. 異文化について、大学生や留学生と関わる中で知る
3. 英語を使う体験をする

の3点です。



ワークショップの後、中学生からは「開田高原がどれほど素晴らしいか改めて知ることができた」、「みんなと意見が違うとき、どういう風に言えばいいか難しかったけど、楽しかったです」、「留学生に英語で開田の説明をしたりして、英語も進化したと思います」などの感想をもらうことができました。

今後の活動

2017年度冬期活動：東京スタディツアー

2017年11月23日から24日の1泊2日で、開田中学校有志生徒を対象に、東京スタディツアーを企画しています。内容としては、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの研究発表会（Open Research Forum）の見学、海外とのオンライン交流、東京の中学生との交流、コンゴ民主共和国 NGO 関係者の講演会、慶應義塾大学教員のミニワークショップ、JICA 地球広場見学などを予定しています。